

汽車の旅

大森 海太

今年の夏休み、息子一家が宮古島に出かけるというので、カミサンと私は久しぶりに旅行のチャンス到来。でも運転免許は二年前に返上したし、団体パック旅行は気が進まないし、連れは足弱だし、ということで三泊四日の汽車旅行と決めこんだ。

初日はなぜか上越新幹線で越後湯沢へ行き、駅構内のショップでお目当ての分厚い津南木彫り皿をゲット。高崎まで戻って北陸新幹線に乗り換え富山に入り、夜はゴルフ仲間のHさん紹介のお店で、富山湾の魚料理を堪能した。私は器道楽だけれど食通ではない。美味しい肴と酒さえあれば、どこでも満足である。

翌日は金沢でサンダーバードに乗り換え京都に向かう。途中敦賀までは在来線に並行して、来春開業予定の北陸新幹線の延長工事が最終段階にかかっていた。

ただ気になったのは、完成まじかの高架線路の半分以上が防音フェンスのようなもので囲われていることである。昨日の富山までも同様で、車窓からゆっくり信州の山並みを眺めようと思っても、すぐに目隠しにあってしまう。高速で輸送さえすればいいのなら、貨物列車と同じではないか。

それと正反対だったのが、次の日の鳥取行き。京都から姫路の先までは東海道、山陽本線だが、そこから分かれた智頭急行は中国山脈を北に縦断するローカル単線で、山の間をゆるゆると登り、ところどころで小さな集落を通過する。窓から見える川は途中まで進行方向と反対に流れているが、峠のトンネルを通過すると別の流れが汽車と同方向に下っていく。鳥取まで一時間ちょっと、そこから乗り換えて伯耆大山を左に見ながら松江に着いた。

四日目は米子から伯備線で今度は中国山脈を南に縦断、岡山に至る。これまた昨日同様、川の流れに逆らって登り、峠を越えて高梁川とともに南下する。いやあ、窓の景色を眺めながらのんびりと汽車の旅、なかなか好いものですねあ。

さて次はどこに行こうか、地図と時刻表を見ながら考える。でも北陸新幹線だけはやめておこう。